

しま

平成7年12月9日 発行

No. 9

社団法人 日本山岳会 山形支部
〒990 山形市下条町五丁目8番16号
長岡伸恭方 TEL・FAX 0236(84)8149

目次

支部事業報告

平成6年度	
平成6年度の事業概要…	2
蔵王・樹氷林を滑る会…	2
支部記録から…	3
平成7年度	
平成7年度の終了事業…	3
神室連峰・八森山…	3
清水弥栄治会員追悼と 蔵王熊野岳・清掃登山…	4
日本山岳会創立90周年 東北ブロック式典…	4
鳥海山「清吉新道」…	5
甌・名勝沼…	6
支部記録から…	6
追悼 佐藤富佐雄氏	
佐藤富佐雄氏のこと…	7
蛙と山岳会員…	7
追悼 清水弥栄治氏	
追憶とは永遠に新たに、 そして、 永遠に尽きることなく…	8
さよなら清水 また来て お清水…	9
合掌…	9
おちこちのやま	
俳句…	10
月山…	10
平成7年7月7日 777メートルに登る…	11
会務報告	
アンケートの集計…	11
パノラマトレック…	12
編集後記…	12

★挿画 田中洋子

あいさつ

支部長 梅津 博

今回、支部長を仰せつかって、私が思いましたことは、山形支部に数多くの人財が有り余っているのに、何故私なのだということでした。

これまでの歴代支部長には、何かと面倒・迷惑をおかけした罪滅ぼしをしるとの天の声と受け止めて、任期限りお引き受けする覚悟を固めた次第です。

私の会員番号は、9166で、全国の支部長では一番の新入りのようで、本部でも戸惑っているのではないかと考えております。しかし、年齢的には、古い方に属する人間で、その上、非力非才の持ち主と自身考えておりますので、これからの支部の運営には、何かと躓きがあることは覚悟しております。

今、世の中は、若い世代に過剰なほどの期待をしております。この前の、盛岡で行われたJAC創立90周年記念式典の講演会で、創立記念事業として行われた「マカルー登山」の隊長さんが、JACの将来は若い層に期待すると言われておりました。それを、鵜呑みにするわけではありませんが、当支部の事業運営でもなんとか取り組まなくてはならないものと理解はしております。ただ、支部会員の年齢分布や活動を見る限りでは、ただちにマカルーのような登山を思考するわけにも行かないのが現状と捉えております。まずは会員ひとりひとりを大切に、和を持って楽しい山登りや集会ができれば、当面の支部は大事なものを考えております。そのなかから何年か後に、若い支部会員が、でてくることを積極的に働きかけ、期待をしながら、事業にも変化をもたせて行くのが、現在の支部会員の務めではないかと考えております。

最近、支部会員の数は増えてつあります。また、支部行事への参加人数も多くなってきていることは大変喜ばしいことだと思います。これは、これまでの事業を運営されてきた方々の努力の賜物と深く敬意を表するものであります。このようにして、数多くの行事を繰り返して行きながら、支部会員の指向するものがどの辺にあるかを見極めることが、今、一番重要なのではないかと思います。

中央などとは環境が違う山形で、山形なりの活動の理念を見出だして行くべきものと思います。しばらくの間、不行き届きのあはることは承知の上ですが、精一杯支部運営に努めたいと存じますので、何卒ご支援の程よろしくお願い申し上げます。



鳥海山新雪 平7.10.9

平成6年度

平成6年度の事業概要

支部の総員は、50名を越える。この中で、常時支部の行事に参加するのは、15・6名前後であるが、なるべく多くの会員が参加できることを心掛けて山行をはじめ行事の計画を組んでいる。

平成6年度は支部総会ではじまる。どの地域からも便利なようにと選んだ朝日村の保養施設「かたくり荘」で、21名の出席を得て4月21日開かれた。事業報告、予算決算と7年度の事業計画などを話し合った。

登山は、6月5日の神室山地火打岳に9名が参加して、まずまずの好天も幸いし、多くの参加者の歳には不釣合と思える山も、楽しく過ごすことができた。

同じ6月26日には、蔵王国定公園の蛤岳（山形神室岳）周辺で清掃登山を行った。清掃登山は、支部行事に毎年組み入れられてはいるが、最近の山は断然綺麗になったというのが実感である。この行事には、4名の参加があった。

6月5日、火打岳に我々が登っていたその日に亡くなった清水弥栄治会員の追悼登山が、8月21日に8名の会員が集まって蔵王山で行われた。

この日の集合場所刈田駐車場は、風雨はげしく行動もままならず、山小屋での追悼集会に切り替え、誰からも愛された故人の冥福を祈った。

9月24日から26日まで2泊3日で上高地の山研に12名が出かけた。ここから徳本峠、焼岳、西穂高岳などに登り全員久しぶりの上高地周辺を満喫した。

10月15日・16日には、11名が参加して、ここ2・3年恒例となっている鳥海山清吉新道の散策山行が行われた。この日は前夜の天気まつの効き目もなく、あいにくの雨となったが、山形支部創始者の一人斎藤清吉翁が苦勞して開いた登山道で、雨に開いた大量の茸をいただき翁をしのんだ。

平成6年を締めくくる支部年次晩餐会は、温海岳の麓、温海温泉で開かれ18名の大宴会となった。翌日は雪道と凍りついた山道に足を取られつつも温海岳頂上から、真っ白に輝く鳥海山、月山、朝日連峰などを望むことができた。

平成7年に入り、3月4日・5日には、蔵王山中腹の山形山岳会小屋をお借りして、蔵王の樹氷林を滑る会が15名集まって行われた。蔵王ならではの樹氷の林を縫って滑る醍醐味は格別である。

また、平成6年5月28日・29日の青森支部設立記念の戸来山登山には3名、平成6年9月10日・11日の宮城県支部主催東北地区集会・七ツ森には7名が参加している。また、全国支部懇談会・氷の山には2名が参加している。

そのほか、本部主催の支部長会議、各種委員会、には、その都度出席をしている。

いずれにしても、当支部の構成員ほとんどが、他の山岳会との二重加入が多くこれらとの調整が一つの課題とはなっている。ただ会員も暫時多くなりつつあり、わかい層に期待はしなければならないが、年配者なりの山行は、今後とも進めて行かなければならないのが現状と踏まえている。

最後ではあるが、この年は2人の支部会員が死去されている。前述の清水弥栄治氏と佐藤富佐雄氏である。佐藤富佐雄氏は、当時日本山岳会が主管して行われた鳥海山の国民体育大会を期に入会され、地元役員として働かれ、以後一途に鳥海にこだわって支部に貢献された支部の長老である。

会員番号は5843である。ご冥福を祈る。

日本山岳会年報「山岳」VOL90/1995掲載予定）
文責 梅 津 博

平成7年3月4・5日

蔵王・樹氷林を滑る会

長 岡 伸 恭

まだ冬の帳の濃い3月4・5日に、蔵王で支部山行「樹氷林を滑る」会を開催した。例年とくらべて雪が多く、スキーは楽しめそうだが、天気がいまひとつだ。

今回は山の原点に浸ろうと、標高1,200メートル付近の山小屋を使った。利用させてもらった山形山岳会的小屋は、故後藤幹次翁以下会員の協力で建設されたもので、ガス、水道、電話、寝具と完備した快適なもの。38年間も立派に維持している山岳会員の努力に敬服するものである。

4日は、それぞれ、三々五々に集合。「せっかく蔵王にきたのだから、リフトが止まるまで」と急いでスキーに出かけるグループもある日没前のひとときだった。

夕食兼懇親会は、地酒あり、山海の珍味ありで山、スキー、動植物の生態、保護など談論は尽きない。折原会員の奏でる免許皆伝の尺八の見事な音色が、静かな雪山に響き渡った。

翌5日、地蔵岳へと向かう。天候は昨日と同様

はっきりせず、深いガスが立ち込めている。三郎岳からパラダイスへ、そして溜沢の頭へとリフトを乗り継ぎ、トドマツヒュッテからケーブルで地蔵岳へと向かい、山頂駅下車。地蔵尊に全員で安全祈願し、ザンゲ坂を一気に滑り始める。樹氷はまだ健在で、われわれに幻想のひとつときを与えてくれる。視界はよくないが皆スキーは達者。中には思い余って深雪に潜ってものがくものもいるが、自然と接するにはこれが一番だ。

各自思い思いのシュプールを描きパラダイスへ、ここで正午までフリータイム。各々それぞれのゲレンデ、コースへと散ってゆく。蔵王は雪質、雪量、樹氷群に恵まれ、ゲレンデも豊富なことで、この山小屋を利用するの企画も恒例になりそうだ。

(参加者) 阿部、大橋、折原、小野、金森、後藤(×)、後藤(影)、佐藤(影)、菅原、東海林、長岡、林、水沢、

「山」6月号(No.601) JAC支部だより掲載

支部記録から

平成6年

- 4月3日 支部役員会 山形市「教育会館」
- 4月24日 支部総会 朝日村「かたくり荘」
- 5月21日 JAC支部長会議
東京「JAビル」大橋支部長出席
- 5月 今西錦司氏記念碑建立寄付に礼状
- 6月6日 県自然保護課へ鳥海山イヌワシ調査
の現状報告と懇談
大橋支部長・佐藤(影) 会員
- 6月8日 支部役員会 山形市「後藤又兵衛」
- 8月1日 支部報「やま」第8号作成・配布
- 9月17日・18日 自然保護全国集会 山梨県美里
佐藤(影) 会員出席
- 11月6日 支部役員会 山形市「教育会館」
- 12月3日 JAC支部長会議 大橋支部長出席
年次晩餐会 6名出席

平成7年

- 1月19日 近畿大震災で関西支部へ見舞い状
- 2月8日 マカルー登山壮行会に祝電
- 2月25日・26日 全国支部事務局会議並びに青年登山
懇談会 東京「JAビル」
真田事務局長・長岡(影) 会員出席

平成6年度支部会員異動

- 入会 高橋 治、田中 洋子
- 引当 佐藤 富佐雄、清水 弥栄治



平成7年度

平成7年度の終了事業

平成7年

- 5月13日 総会記念登山「八森山」
- 6月13日 清水弥栄治会員追悼と蔵王清掃登山
- 9月9日 JAC90周年東北ブロック記念式典
盛岡市「東日本ホテル」
- 9月10日 JAC90周年東北ブロック記念登山
岩手県「姫神山」
- 10月7日・8日 清吉新道散策山行「鳥海山」
- 10月29日 女甕山登山

平成7年5月13日

神室連峰・八森山

折原 栄悦

5月13日の支部総会記念登山の八森山は、終始霧雨の煙る白い世界だった。ここは新庄神室連峰の最南端のピーク。1,000メートルそこそこの山とはいえ、いかにも陸奥らしい深さと静けさに満ちている。

周辺は山菜の宝庫であり、その最盛期を狙ってか、林道の所々に車が止めてある。薬師原の登山口に至り、菅原富喜氏の先導で雨具を着けて登りにかかる。始めは杉林の中にカタクリの乱れ咲く薄暗い藪を分け、次はいきなり急勾配が続く。菅原リーダーはなれている山とて平然。その速さにハアハアしながら登る。苦しくなると、タムシバの純白の花が露をふりまきながら揺れている下で足を休める。イワウチワが点々と径を彩り、頑張れよ、と励ましてくれるかのようだ。

しばらく進むと残雪が現れ、藪と雪を交互に踏んでゆく。と、ブナの倒木にブナワカエの群生を見つけた。帰路の楽しみに採らずにおく。次第に風雨が強まり、気温も下がる。笹藪がガッパリと径を覆い、前をゆく仲間の頭しか見えない。晴れていれば神室連峰が一望に見渡せるのだがと、リーダーはガスで見えないあたりを指さす。

風にたたかれ、震えながら、人影とてない山頂に到達、11時。展望は全くないが、最上の山並みの広やかさがヒタヒタと我々を包んでいるのを感じた。祠の陰で食べた誰かが持参した「トチモチ」のうまかったこと。さて、寒い頂きに別れを告げて下山にかかる。

登りに見つけておいたブナワカエの場所を目指して、疾風のように下る三人組がいた。なんと大ビニール袋に二袋も収穫。いつの間にか風雨はやわらぎ、霧の動きにつれ、萌えたばかりの新緑の山林と残雪の絶妙の組み合わせが、現れては消え、息をのむほどの鮮やかさだった。

後続もいっしょになり、コシアブラの若芽を採りながら、豊かな自然から体を採みほぐされたような気分で、山麓の車の地点に戻った。

(参加者) 大橋、折原、東海林、長岡、斎藤(暫) 水沢、金森、菅原、高橋、前盛夫妻、
『山』9月号(No.604) JAC支部日より掲載

平成7年6月18日

清水弥栄治会員追悼と 蔵王熊野岳・清掃登山

今 野 秀 穂

6月18日、梅雨期には珍しく真っ青に晴れた初夏の空の下、緑濃く光輝く蔵王山・熊野岳山行が支部長以下17名が参加して実施された。

今回の登山は、蔵王をこよなく愛し、私たち会員に親しまれていた清水弥栄治会員を偲ぶ追悼登山に、支部恒例の清掃登山をかねての催しであった。

当日は、8時・蔵王ケーブル駅の集合地点から車4台に分乗して菖蒲沼に至る。全身を深緑に染め、降りしきるセミの声を耳に登り始めた。初夏の山を彩るイワカガミ、ツガザクラ、など山の花に迎えられ、蔵王山の象徴でもあるエメラルドグリーンのお釜を経て、熊野岳に着いたのは11時過ぎ。

熊野山頂で、清水会員を偲んで一分間の黙祷をささげた後、折原会員の奏する「虚菩薩」の尺八の音色がじょうじょうと蔵王の峰々に、そして遙か遠く残雪をいただく朝日、飯豊の山脈に、また逝った人、生ける者の魂を揺さぶるかのように、流れて消えていった。



帰路は登山道の清掃を行いながら、予定通り無事下山した。

逝きし岳友

とも
岳友偲ぶ登路にあつき岩鏡

湧く雲に岳友の幻影岩つばめ

雲表や岳友を悼みし鎮魂歌

(参加者) 金森、水沢、佐藤(暫)、斎藤(暫)、梅津、今野、折原、長岡、東海林、田中、長岡(暫)、長岡(五)、石山、ほか鶴岡山岳会員5名
『山』9月号(No.604) JAC支部日より掲載

平成7年9月9・10日

日本山岳会創立90周年 東北ブロック式典に 参加して

高 橋 治

日本山岳会会員番号11694は、本会に1994年に入会した新参である。入会申請のうちに推薦者になってくださった大橋前支部長と菅原会員に入会が承認された旨の報告をした時、「新入会員レセプションには是非出席されるといいますよ。」とのアドバイスを受けた。それを受けて第20回オリエンテーションに出席したその席で、藤平前会長が歓迎の挨拶をされたが、本会の90周年を迎えるにあたってのことを述べられたのを記憶している。このことを聞いてそのときは、『歴史のある組織なのだなあ』という程度の感慨であった。

その後、機関紙「山」で、本会の創立90周年式典が9ブロック別に行われることを知った。90年という年輪の刻みは、その式典をブロック別に開催できるまでの組織力を育成してきたことを痛感し、その感慨もまた一入であった。

創立90周年東北ブロック式典のセレモニーでの村木会長・藤平90周年記念事業委員長もそれぞれの挨拶のなかで斯様に述べられた。そしてまた、『ややもすれば90年という年月のみに目がいき、その間の中身の検証が疎かになることを戒め、会員相互の融和と創造を大切にしていきたい。』とも述べ

られて挨拶を結んだ。

引き続いて、重廣恒夫氏の記念講演があった。壇上に立った氏には、マカルー東稜登山隊隊長の風格があった。講演者の話術とスライド映写からは、登頂に至るまでの労苦が伝わってきた。そして日本山岳会の今後には、若いアルピニストの育成のために、大学などとの連携も大きな責務であろうとの言には、創立90周年とダブって重みさえ感じられた。

式典の開会と閉会の言葉、記念講演の講師の紹介と謝辞では、各県支部長が立ってそれぞれのお国訛りを交えて述べられた。ローカル色が出ていてとても好ましく思えた。関東地区や東北ブロック外から出席された会員の皆さんには、好印象を与えたものと思う。

二日目の記念山行「姫神山登山」は、降らず照らずのまずまずの天候のもとで参加者全員が登頂下山した。『登りの一本杉コースは一般登山道、城内コースは昔の修行の道であった。』と山行のリーダーを務めてくれた岩手支部長中谷充氏が入山に先き立って説明してくれた。なるほどと頷ける下山路であった。

日本山岳会創立90周年東北ブロック式典には、山形支部からは梅津支部長をはじめとして、村山地区10名、最上地区3名、庄内地区1名の15名が出席した。出席の確認、諸経費の取りまとめ、宿泊場所の予約、現地での物資の購入など事務局をはじめ若手の三浦氏ほかの皆さんに大変なご苦勞を患わせた。紙面をお借りして感謝申し上げる。

最後に、この式典には新しく会員になられた新庄市在住の前盛智恵さんのご夫君も参加された。このことについては梅津支部長や事務局の配慮と会員皆さんの理解があってこそ実現し得たことだと思う。このような暖かい配慮と理解は新たな会員を生み、それはまた山形支部の発展にも繋がるものであると思われる。と述べ拙文を結ばせていただく。

(参加者) 梅津、水沢、阿部、今野、折原、会田 斎藤(●)、三浦、菅原、高橋、田中、前盛夫妻、東海林、長岡、

平成7年10月7・8日

鳥海山「清吉新道」 散策山行

後 藤 彰

ここ数十年廃道化していた「清吉新道」は、4年前庄農OB会関係者により整備され、漸く無名滝付近まで登行できるようになりました。

このように隠れた存在の「清吉新道」を、JA

C山形支部10月山行で取り上げてくださり、梅津支部長はじめ、会員・地元17名の参加を戴き、7日～8日に実施されました。

天候にも恵まれ踏みあとと少ない径を行くにつれ、未だに俗化されず自然味溢れる登山道が、今も遺されているのかと、参加させて戴く毎に感じさせられる山行でありました。

7日 PM 4:00 山雪荘集合でしたが久々の秋晴れに誘われ、時間前に到着致した会員数名にて早速滝の小屋までの散策を楽しみました。

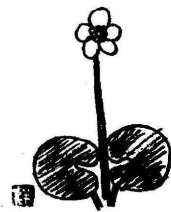
山雪荘では地元若手会員による、畠中会員より頂戴致した鮭の初物の手料理に奮闘しており、散策より帰られた頃にはご馳走も出来上がりPM 6:00 開会の懇親会を待ち切れずに乾杯となってしまいました。毎回定番となりました会員持ち込みの各地の地酒、ワイン、薬酒等が豊富に有り鮭のどんがら汁、焼き魚、イクラ等と鮭三昧となり、合わせて飲み物食い物談義に花が咲き、飲み助会員にはこたえられない懇親会となり、夜遅く迄の宴となりました。尚、山雪荘を所有する山雪会の佐藤・本間両氏の参加を戴き、会員8名との交流を深める意義深い夜となりましたことも申し添えておきます。

8日、当日参加の会員・地元の皆さんと山雪荘前で合流し、総勢17名にてAM 8:00に出発となりました。

山雪荘より下径に入り、途中鶴間池では静かなたたずまいの湖面を眺め、鹿ノ俣沢の渡渉では緊張感がはしり、尾根筋に上がってからはブナの樹木に囲まれ森林幽谷そのものといった感じでした。突然頭上に青空の空間が広がり今迄の景色が一変しました。ここが、標高1000mの植物園で、1ヶ月前には見事に咲きほこっていたらうと思われるリンドウの花も枯れ始め、一段と初秋の候を強くしておりました。池塘の毛せん苔に気を配りながら、錦秋をバックに記念写真を終え、たまたま見つけたシバクリなるものを賞味し、植物園から往路を下山しました。鹿ノ俣沢で缶ビール付の昼食をし、鶴間池では自然水を水筒に詰めたり、ブナの実を食したりと、地元の女性達は行動が活発です。途中径みちに落ちているブナの実が付いている小枝をザックに差しながら無事山雪荘に下山。

最後に梅津支部長より挨拶が有り解散となりました。地元の長山さん他6名の女性の皆様、今回の山行に華を添えて戴き有り難うございました。

(参加者) 梅津、畠中、阿部、佐藤(●)、後藤(●)、長岡(●)、佐藤(●)、林、佐藤(●)、佐藤(●)、ほか7名



平成7年10月29日

甌山・名勝沼

菅原 富喜

秋期例会は10月29日県北真室川町にある女甌山（標高979メートル）で実施。参加者17名JR大滝駅に集合、前森山林道より入り、天候も良く久々に山での親睦登山となった。

さて、甌山を紹介しましょう。

女甌山は、山形、秋田の県境に位置し、丁岳、加無山と共に山形県「加無山県立自然公園」に指定されている。

また、この山塊は、奇岩重畳とした岩山で、岩体が主として安山岩・流紋岩からなり偏東積雪による岩の浸食により、山全体が急崖の岩峰にして四季折々特異な山岳景観を見せることから岳人の人気の高い山である。

甌山は、男甌・女甌という、双子の山にして、この山の一般登山路は、大滝甌林道から男甌山に道が拓かれており、独峰天を突くが如き男甌頂上からは、付近の山々が一望できる。

このたびは登山路の不確かな、女甌山にあえて挑戦ということで、一週間前に下見登山今日に備えてのことである。車の終点でミーティングを終えて出発。紅葉今が見どころのブナ原生林を縫うように登り、昔を忍ぶ甌峠に着く。ここから胸を突く急登、まるでロッククライミングである。さいわい木枝・草根があり、手足を巧みに使いわけながら登る。一時間あまりで女甌山頂に飛び出す。足元から約300メートル切れ落ちる断崖と景観に歓声が起る。

周囲の山々が一望、烏海山・月山・葉山・神室連峰遠くは秋田県の山々が見える。

記念撮影、男甌方向へ下山、まもなくコルへ着く、予定時間よりかなり早い。ミーティング全員の賛同を得、男甌山に挑戦することとなり出発、再び急登、山腹から今登ってきた女甌山、名勝沼の景観に一同大満足、男甌山頂に着く。再び周囲の山岳景観を楽しむ。下山。

ブナ原生林に静かにたたずむ名勝沼に着く。昼食、素晴らしい周囲の紅葉を眺めながら親交を深め帰路となる。

途中、女性会員からの提案があり時間もあることから、今日の楽しい登山御礼に清掃登山をすることになり、全員賛同、帰りは各人ビニール袋いっぱい「山の味覚」ならぬ、空き缶・ゴミを拾集下山、誠に心さわやかな登山であった。

（参加者）菅原、水沢、佐藤(男)、佐藤(女)、松田、田中、石山、後藤(男)、斎藤(女)、小野、長岡(男)、梅本、秋野、ほか4名

『山』11月号(No. 606)JAC支部だより掲載予定

支部記録から

平成7年

4月9日 支部役員会 山形市「教育会館」
5月14日 支部総会 最上町「りんどう」

19名出席
平成6年度事業・会計報告
平成7年度事業・予算承認
役員改選（支部長）梅津博（副支部長）金森繁三郎（支部委員）阿部勇作、会田茂雄、菊地俊彦、後藤彰、今野秀穂、佐藤淳志、菅原富喜、田中洋子、長岡伸恭、松田孝一（事務局長）長岡伸恭

5月20日 日本山岳会支部長会議
東京「グリーンホテル水道橋」
梅津支部長出席

5月28日 支部役員会
山形市「国際交流プラザ」

6月3日 総会資料・清掃登山案内発送

6月13日 会費払込用紙、アンケート発送

6月13日 日本山岳会創立90周年記念東北ブロック参加者用振込用紙と宿泊案内書送付

7月19日 支部自然保護委員（今野秀穂）本部へ報告

7月31日 岩手支部へJAC90周年記念東北ブロック式典参加料金送金

8月10日 蔵王山清掃登山の原稿（今野秀穂）『山』への掲載依頼

8月20日 日本山岳会創立周年記念東北ブロック式典祝賀会・記念登山の参加要綱出席者へ発送

9月20日 清吉新道散策山行案内発送

10月4日 梅本幸巳氏入会申込書本部へ発送

10月5日 支部事務局会議
山形市「東部公民館」
年度後半予定事業実施計画
3月に烏海山スキーを追加
支部報『やま』の編集発行
来年度に海外登山を計画

10月6日 女甌山山行案内発送

10月14日 日本山岳会支部長会議
東京「新高輪プリンスホテル」
梅津支部長出席

10月14日 日本山岳会創立90周年記念式典・晩餐会 東京「新高輪プリンスホテル」
村上、加藤、梅津、松田出席

11月7日 秋野芳子氏入会申込書本部へ発送

11月7日 平成7年度晩餐会案内発送

11月8日 女甌山山行の原稿（菅原富喜）『山』への掲載依頼

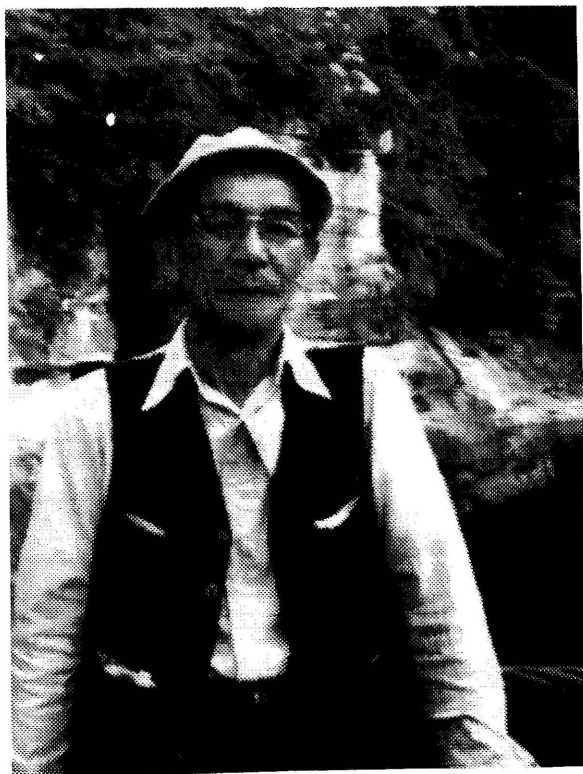
11月18日 日本山岳会新会員顔合わせ会 東京

11月19日 支部会員No. 5841高橋長助氏死去

11月20日 支部会員No. 12010佐藤力氏死去

追 悼

佐藤富佐雄氏



平成6年4月21日 逝去

殿下鳥海山春山スキー随行の準備あたりからで、冬山の魅力に憑かれ始めると共に、畠中善哉氏や斎藤清吉氏との同道の山行に依って一層の興味を深くもたれたものと思われます。

遊佐町合併の当時は、四つの地域にそれぞれの特色ある山岳会がありましたが、佐藤氏の発案に依り、昭和37年に現在の鳥海山岳会と鳥海スキークラブの二つに組織替えをして現在に至っております。その時、山岳会とスキークラブの冠に鳥海の名称をつけてくださったのが彼でありました。これも役場職員としての彼独特の優れた知恵ではなかったかと思われます。特に、秋田県や他町村に先がけて遊佐町の鳥海山をアピールしようとする配慮の現れだったと考えられます。

鳥海山吹浦口3号目にこぶし山荘という山小屋があります。3月にはマンサクの花が咲き、残雪の上にはカラ松の新芽が映えます。又、こぶしの花が咲き、清流は岩角を打って音を発します。秋は紅葉の織りなす錦絵が、一望出来るこの小屋こそ彼にとっては、「人間は自然の子」、自然をまるのみ出来る小屋として好んだようでした。山小屋での酒宴を楽しみ、酔うほどに小柄な体が、今一つ小さくなる感じでした。

私たちは、彼との山小屋での懐かしい思い出と共に、当時の面影を偲びながらご冥福をお祈り致します。

鮭と山岳会員

加 藤 達 男

岳友佐藤富佐雄氏のこと

畠 中 六 左 衛 門

佐藤氏との出会いは、昭和29年8月の町村合併した翌年に、鳥海山の遭難救助の現場で、役場職員として参加された時が初対面でした。

氏は、長年役場職員として勤務され、総務課長を最後に退職されました。その後、町商工会事務局長を平成5年3年まで勤められましたが、やめられてまもなく体調を崩し、昨春、不帰の人となられたのです。

氏は、前述とおりの経歴でしたので、山形支部等の大きな行事には参加する機会に恵まれなかったようです。只、山形支部の「庄内で鮭を食べる会」に出席された方々には、思い出があるかと思いますが、からだの小柄で多弁を弄することなく、事務的にもてきばきとして、私たちの会のためにも尽力をされてこられた能吏でもありました。氏の山行が盛んだったのは、昭和33年の高松宮

どんよりとした鉛色の空。木枯らしの寒さに乗って白いものが、いまにも来そうな朝であった。会員有志の忘年会、「鮭を喰う会」の集まりがおこなわれる師走の或る日のことだった。

庄内北端の遊佐町が会場である。参加会員は、内陸の故後藤幹次大先輩他3・4名、他に鶴岡・酒田・地元遊佐町のJAC会員である。

車で出発し、13号線を北進した。秋晴れの日なら、西の空にくっきりと白一色の月山が一段と高く望め、その前山、葉山の頂き近くに雪のある眺めとその向こうに、真っ白な朝日連峰まで見えるのだが、当日は、残念ながら初冬特有の暗黒の空であった。

寒く暗い新庄を過ぎ、最上川の兩岸の山々がガスで煙り、葉の落ちた木々が淋しく立つ中を、川の流れだけが「ゆったり」と灰色の庄内に吸い込まれる様であった。時々、白い雪が飛び込んできて、まだ本格的な冬には遠いが、寒さを感じる初冬の風景であった。

夕方早めに、遊佐町の会場に着くと、地元会員で、今日の世話役でもある畠中の六さんが迎えてくれた。暫くして、地元・鶴岡・酒田などの会員20名近くが集合してきた。

まず、地元銘酒で、会員の健康と再開を祝して乾杯した。料理は本日のメイン鮭料理を始め、日本海の魚料理・山菜等に、地元林会員自家製の薬酒等もあり、会員久方振りの会合に、話あり、歌あり、民謡ありで、宴は大いに盛り上がった。宴もたけなわとなり、阿部会員の最上川舟唄がでる頃の外は、日本海を渡る風が、12月の日本海の淋しさを伝えていた。松籟の音と共に、未だに耳に残っている。この集まりで、地元会員の故佐藤富佐雄会員や高橋長助会員などと初めてあった。後藤大先輩と話していたことを思い出す。宴は銘酒と共に夜半まで続いた。

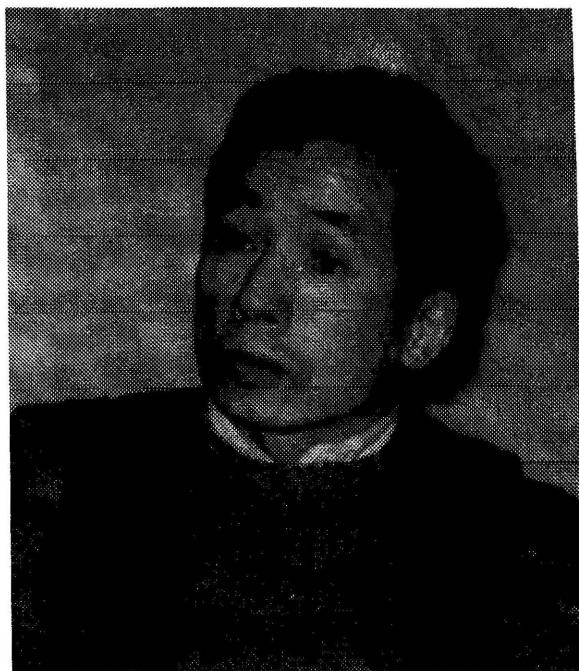
明けて朝食後、内陸の会員が月光川の鮭孵化場を訪問し、いろいろと鮭のことについて教えて戴いた。ただ、支部会員として、夏だけでも一緒に山行はできないのだろうかと思ったり、また、いつJAC支部山行に参加して下さるのだろうかと思いつきその日のくる事を楽しみにしていた。しかし、その時が最初であり、そして最後の出会いで、とうとう一緒に山に行く機会はなかった。

帰途、遊佐町の永泉寺にある県指定文化財「石造九重層塔」を林会員の案内で見学し、初冬の庄内を後にした。佐藤富佐雄会員の亡くなられた事をお聞きし、十数年前の故後藤幹次大先輩他会員有志の集まり「鮭を喰う会」思い出の雑文を認め、心から故佐藤富佐雄会員のご冥福を祈るものである。

追記 この稿を書きあげてから高橋長助会員の逝去をお聞きし、呆然としている。併せてご冥福を祈るものである。



清水弥栄治氏



平成6年6月5日 逝去

追憶とは永遠に新たに、 そして、 永遠に尽きることなく

木村喜代志

今年もまた白い季節がやってきた。思い出とともにこれからに向かっての心地好い興奮を覚える季節でもある。

ここ3年間で、共に登りあるいはお世話になった5名の友、知人を亡くした。さらに5名のうち4名は、自分より若く、人生にも山にも多くの選択肢を残していただけに、何とも心残りのする出来事だった。

なかでも清水君の訃報に接したときは、複雑なものが胸中をよぎった。思い起こせば、高校3年のこの季節に、中村と3人で新聞記事になったことがあった。学校を休んでの瀧山だったので、今はなき後藤会長さんはじめ多くの先輩、同僚に多大のご迷惑をおかけしてしまった。そして、中村は2年後の12月、明神岳東稜でかえらぬ人となった。

清水君とは、彼の大学卒業前後数年間、年中行事のように雪に埋まった「こぶしの小舎」で会し

たが、山行を共にすることはなかった。その後、庄内の地で仕事ならみで良く会う機会があった。山を離れての付き合いの端はしに、高校以来培われてきたであろうひょうひょうとした話しぶりと、そのとおりの生き方が羨ましかった。それだけに突然の訃報は驚きであり、自分の目と耳を疑った。そして、高校3年の一件を思うと何とも複雑なものが込み上げてくる。あの時の3名のうち2人が他界した。心中穏やかでない。自分だけが気ままに山に浸りきっていていいのだろうか。いや、2人の分まで山に入りたい。矛盾する自問自答の日々が続いた。

喪服を収い込む暇もなく、加えて、新しい職場での目新しい仕事に忙殺され、数カ月が過ぎた。時間は、確実に心の傷を癒してくれる。しかし、時の経過は装飾的なものをいっさい削ぎ落とし、事実だけをよりはっきりと浮き彫りにもする。雪のきた山のぴりっとした寒さの中にと、懐かしい友の温もりが込み上げてくる。そして「山では、俺は生きている」の言葉が、実感として伝わってくる昨今である。(1994, 12, 12)

さよなら清水 また来て お清水

菊地俊彦

山形駅の改札口から重いキスリングとともによろめきながら押し出される。迎えの手を振るMの後ろから無言のまま男が近づいてきて、有無を言わず私からキスリングを奪い取る。急に身軽になりたたらをふむ。男が気にはなったが、Mとは久方ぶりの出会いなので香澄町の自宅まで懐かしい会話が弾んだ。玄関に着いても話が続いた。しばらくたって気がつくキスリングは家の中に、無言の男は消えていた。30年前、清水君との最初の出会いである。

山道と一緒に歩いていた筈なのに清水君の姿が見えない、

「全く、どこさ いったんだべな、熊さなの あったら大変だべ ひとさ心配かけで。山の熊なの 清水が関の孫六や、虎徹や、備前長船や、月山丸に匹敵する名刀匠の鍛えた業物 マキリを持っているなんて知らないべした 清水さ会ったらただでは済まねんだじゃ」

心配し始めようとする頃、ガサコソ藪の中からビニール袋一杯の山菜と清水の笑顔が現れ、だまって自分の収穫物を私のザックにいれてくれた。

いつも家族や、友人や仲間を想ひながら行動し、必要なことははっきり主張するまさに不言実行の男だった。

荒砥に美味な小倉羊羹があると聞いた。その小

さな店はお茶専門店で目的の羊羹もケースの中にあった。羊羹と一緒に店頭にあった15軒ほどの茶の苗木を一本購入した。

定かでないが、一緒に行った彼に私は言ったような気がする。

「清水よ、今のお茶全く旨くないべ、消毒薬まみれのうえ、深蒸しになってから、味は勿論のこと茶殻撒いて掃除もできないべした。酒の方がいいというべげんともよ。俺、お茶の苗木買ったから、育でで本物のお茶作って、坊平のお清水（おすず）の水汲んできて、お茶立ててけっからな」

時が来たらお清水から汲んできた水で手造りの茶を立て、清水君を偲ぼうと思う。

平成7年10月6日

合 掌

梅津博

平成6年6月5日、山形支部の山行で、神室山系の火打岳登山の帰りは、すっかり暗くなっていた。予想外の長い急坂と尾根道に苦しめられ、疲れた体で車を急がせていた。庭月観音への分岐道の看板がウッスラと記憶の中に消えて、静まり返った夜道に車の音だけがやけに響いていた。

ようやくの思いで玄関の戸を開けると、娘が青い顔をして、「清水さんがなくなった」と一言告げた。私は言葉がなかった。

清水君を知ったのは、彼が山形東高校の山岳部時代から始まるが、当時OB達で蔵王に山小舎作りをしており、週末は部員とともに労働に汗を流していた。その中で、清水君の働きぶりは下級生でありながら部員を纏める術にひかるものがあった。彼が大学を終えて就職してからも、私が県庁の観光課勤務などという仕事のつながりもあって、よく蔵王とか月山と一緒にいったことがある。

日曜日には、娘を連れて子守よろしく月山などを楽しく歩いたことが思い出される。また、彼のアパートが私の家と近かったせいもあり、娘はよく遊んでもらったものである。

彼の山形支部へのかかわりは、JAC全国集会を蔵王アストリアホテルで開いた時から始まる。この時ホテル関係者を会員にしておけば何かと都合がよい筈と彼を引きずり込んだのである。これは全くの図星で、きわめて盛大で有意義な集まりとなった。支部の運営も重宝な彼を見逃すわけがなく、ズルズルとお願いすることになってしまったのである。

韓国の雪岳山に行ったとき、珍しくあんなに無口でばたのを見たのは、些か意外であった。あの時あたりから病魔が或いは忍び込んでいたのだろうか。支部の清掃登山の雁戸山、支部山行の甌

病院の入退院・手術を繰り返し大変な時期にも、いろいろな山関係のことで、私の勤め先に何回も来てくれたことがある。用があるなら私の方から出向くからといっても、最後の頃は、松葉杖でありながらも車を運転し、不自由な足で階段を上ってきて、以前と変わらぬ顔で、話をしてくれた姿を思い出すと胸が痛くなる。聞こえない筈の松葉杖の音が耳に蘇って来る。

気がつくと、私は人気のなくなった河原にたつて、じっと灯籠の流れを追っていた。 合掌

お ち こ ち の や ま

俳 句 月 山

山稜を搏つ爪の音 雪の白
独行者 雪の白くをふみ行けり
凍し身を大雪城の爪搏てり
ラジウスの青焰あき高し 雪の小屋
雲表をいで 初冠雪の月の山

今野秀徳



の毒という思いである。お茶にしても、コーヒーにしても、まずい水で入れたものはやはりまずい。美味しい水のところで、美味しいお酒や、美味しい米ができるのは納得できる。

平成7年7月7日 777メートルに登る

梅 津 博

東鳥海山。その山は、秋田県湯沢市の南東須川地区にある。「古名は『雄鬼骨山（おほこしやま）』、地元では『権現山』と呼んでおり、五穀豊穡の『作神様』としての山岳信仰がある霊峰である」とこの日貰った地元の案内書にあった。

東鳥海山は、鳥海山の真東に位置し、南鳥海ともいわれる神室山と並び、遠く仰ぎみる姿は、どっしりとして威厳すら感じられる。国道13号線を北上すると、横堀をすぎ、小野の小町で有名な小野の部落あたりから、右手に見える山である。西の鳥海山に比べれば、東鳥海山は小山であり女性的ではある。最もこの地域では、「権現山」の祭神は女神であり、女の人がこの山に登れば神の怒りに触れ雨が降ると言い伝えられてきたという。

自動車がはいられるギリギリのところの登山口で、秋田近代美人を交えたテレビ取材クルーから山の賑わいと頂上までの大変さを耳にし、少しばかり気落ちした。女が登っても今日の権現様は、機嫌がよいのか、雨は降らない。それにしても暑い。30度はゆうにある。ジリジリと照り付ける陽射しに目が眩む思いである。

朝の出発が遅れて、相川の登山口を出たのが10時45分であった。村をあげての7年7月7日に777メートルに登る「777東鳥海記念登山」が7時7分から行われているのである。頂上で7時

7分であるから早い人は5時くらいから登り始めたのだろう。もう行列をなして帰ってくる。ここでも中高年が目につく。中高年後半の私も、ひとり身軽な格好で急坂を登っていったが、病み上がりには何ともきつい。登り始めは、小さなダム工事現場を通るので、むき出しの赤土にズルズルと滑る。しばらくは、使われなくなってから久しい林道くずれを進むが、結構急な道路である。フウフウハアハア腰をさすりながら重い足を一步一步前にあげていく。鼻の先から汗が球になって靴の上に落ちるをみると引き返したくなってくる。ようやく山道にはいって、樹木の中にきたのですこしは涼しいのかと思ったら、そよとも風がなく陽射しが木々の葉を通し、矢となって体につき刺さってくるのには閉口する。道々杉の大木などがあり信仰登山の名残がしのばれる。40分も登るとちょっとした広場があり小さな祠に出会う。頂上まで2つほどの祠があり往時の賑やかさが伝わってくる。苔むした自然石の階段に静かな空気がながれ、一時、昔日の人々の足跡の匂いを思い起こしてくれる。1時間20分ほどで東鳥海神社本宮の鎮座する広い頂上に着いた。登山口で出会ったテレビクルーからは、2時間はかかるといわれていたので以外だった。それでもこんなきつい山は暫くぶりである。頂上の記念登山の受付はしまり始めていたが、秋田銘酒ワンカップの記念品などと一緒に「777東鳥海記念登山」登山証明書を貰った。受付番号が367番でここにも7がかろうじてあった。

頂上からの展望はなく、古いブナの林に覆われていた。登山途中からも西の鳥海山はとうとう望めなかった。ただ、県境の甌、丁あたりの山容がかすかに目にいった。雲に眺望が遮られてはいたが、どんな姿の鳥海山が望まれるかまた訪ねてみたい気はする。

山形への帰り道、稲庭に寄り道し、山の上の稲庭城跡今昔館に登ったが、皆瀬川を挟んで東鳥海山のどっしりとしたシルエットが遅い午後の陽に浮かび上がっていた。



アンケートの集計

これからの支部事業についての参考のためアンケートをさせて戴きましたが、24人の方から回答が寄せられました。

Q 貴方が登って見たい山、行って見たい峠、湿原等は？

- A 1 利尻岳（礼文も含む） 3人
2 屋久島（宮之浦岳）開門岳 3人

- 3 尾瀬ヶ原 3人
4 会津駒ヶ岳 2人
5 燧ヶ嶽 2人
6 至仏山 2人
7 南アルプス 2人
8 御神楽岳（新潟県） 2人
9 越後三山縦走（駒ヶ岳・八幡山・中ノ岳） 2人
10 立山 1人
11 十勝岳 1人
12 知床連山 1人
13 槍ヶ岳 1人
14 北海道の山（太平洋側） 1人

- 15 櫛ヶ岳 (八甲田) 1人
 16 栗駒山 1人
 17 世界谷地 (第一、第二) 1人
 18 和賀岳 1人
 19 三本槍岳 (福島・栃木県) 1人
 20 上高地 1人
 21 高倉山 1人
 22 秋田駒ヶ岳縦走と黒湯温泉 1人
 23 田代山 (福島県) 1人
 24 餓鬼岳 (北アルプス) 1人
 25 針ノ木峠付近 1人
 26 愛鷹連峰 (富士山付近) 1人
 A 北海道や四国、九州の山
 B 海外の低い山 (花の季節がよい)
 C 日帰りのできる静かな山 (白鷹山など)
 D 千米前後の山
 E 登行3時間位の行程で……
 F 県外の山
 G 全国の駒ヶ岳めぐり
 H 長根山の野生かきつばた群落
 I 日本アルプスに簡単に登れるピークはあるでしょうか?
 K 深田久弥の百名山どこでもよい
 L 銀山温泉周辺の山、沢

Q 海外トレッキングでは?

- A 1 チョモランマ等、中高年用トレッキング
 2 スイスの山岳を見て見たい。
 3 オーロラを見にいきたい。
 4 マッターホルン
 5 玉山
 6 ネパールヒマラヤ
 7 カナダ、アラスカ 2人
 8 韓国、台湾の山
 9 北方の山 (ソヴェト)
 10 天山、パミールトレッキング

Q 日数? 何日間位

- A a 5日~6日間位 4人
 b 1週間位 4人
 c 7日~10日間位 10人
 d 15日間位 2人
 e 20日間位 2人

Q 費用は?

- A I 7万~10万円 1人
 II 15万~17万円 3人
 III 20万円位 3人
 IV 30万円位 2人
 V 35万円位 2人
 VI 30万~40万円 4人
 VII 30万~50万円 3人
 VIII 40万円位 1人

IX 40万~70万円 1人

Q 山形支部への要望

- A イ 高年齢対象の山行も企画願度し。
 ロ ミニ岳連にならない様に (出身山岳会を引きずらない事)。
 ハ JACに入会した会員の心が生かされる様に。
 ニ 年より向きに計画した山をのんびりと、蕎麦を食べ、美術館を観たりしながら2・3日旅を望む。
 ホ 明るく楽しい支部の運営を期待
 ヘ 自然保護の個別の問題を支部で取り上げるのは反対
 ト 健全で明るい論争で支部も強固になる。
 チ 支部行事には多くの参加を、積極的に努力するよう企画する時にも配慮を。
 リ 役員に定 (停) 年制をもうけたらどうか (当面65~70歳、将来60歳)
 ヌ 数多くのメニュー (行事) を企画し、その中から自分の希望する行事を選抜し、費用は個人負担とし、5名以上参加希望者あるものを支部の事業 (行事) としては……

ご協力誠にありがとうございました。

会員各位の貴重なご回答、ご意見を最大に活用させて頂きご要望に答えるべく役員一同努力して参る所存です。(事務局長 長岡伸恭)

募集します

アンナプルナ・ダウラギリ・パノラマトレック

平成8年

4月26日 (金)	山形 成田 成田 バンコック
4月27日 (土)	バンコック カトマンズ
4月28日 (日)	カトマンズ ポカラ ポカラ チェンドラコット
4月29日 (月)	チェンドラコット ガルドン
4月30日 (火)	ガルドン タラパニ
5月 1日 (水)	タラパニ グラパニ
5月 2日 (木)	グラパニ プーンヒル往復
5月 3日 (金)	グラパニ ビレタンティ
5月 4日 (土)	ビレタンティ ポカラ ポカラ カトマンズ
5月 5日 (日)	カトマンズ バンコック バンコック
5月 6日 (月)	成田 成田 山形

全食つき、経費は¥330,000程度、詳細については事務局にお問い合わせください。

◎編集後記◎ ようやく山形支部報「やま」第9号をお届けします。玉稿をくださいました会員に厚くお礼を申し上げます。今回は、横書きにして自前でワープロをしました。経費の節減と支部報をより見やすくしたためです。題字の「やま」も作者の意に反し、横書きにしました。おわびします。★編集担当★ 長岡伸恭・梅津博・菊地俊彦・倉田茂雄・三浦繁司・田中洋子